

岐阜教務所長 磯野恵昭

「 」

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしく願いいたします。

数年前ですが、テレビの深夜番組で「皆月」という映画を観ました。

妻に全財産を持って逃げられてしまった、冴えない中年サラリーマンを奥田瑛二さんが演じておられ、その奥さんが、家を出ていく時に残した手紙の初めが「みんな月でした、もう限界です」というテーマとなる言葉でした。その後、世の中であまり日の当らない部分を生きる、数人の人による、エロ・グロ・ナンセンスを盛り込んで展開する物語ですが、非常にハッキリしたメッセージがありまして、それが映画の最後の方で奥田さん扮する主人公によって語られます。

それは「そうだ、人は皆自分で輝くことの出来ない月なんだ」というものです。その言葉が明るさと確かさを持って語られていました。

「所詮自分では輝けないんだ」というのと違って、「俺たちは皆月でしかない。しかし月であることは約束されている。自ら輝く事の出来ない者として生きることは、何によっても邪魔されないんだ。」

という響きがありました。

しかし現実の私は、太陽も知らず、自分が月であることも知らず、いつか自分が輝いて、そして皆を照らしてあげたい、などと思いあがって、又新しい年を迎えたことです。 本年も宜しく願いいたします。